様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　５ 月 １４ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ００１５４

研究課題名（和文）芸術の美的体制と対話・協働の美学の比較研究――芸術の自律性と社会関与の関係の解明

研究課題名（英文）Comparison between Aesthetic Regime of Art and Collaborative/ Dialogical Aesthetics: Relationship of Autonomy of Art and Social Engagement

研究代表者
田中　均（Tanaka, Hitoshi）

大阪大学・文学研究科・准教授

研究者番号：６０５１０６８３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はもともと、ジャック・ランシエールによる芸術の美的体制をめぐる議論と、グラント・ケスターによる対話的・協働的芸術実践をめぐる議論とを比較することを目的としていた。しかし研究過程のなかで、専門的な芸術家と非専門家との対話的・協働的芸術実践についての理論的洞察を深めるためには、むしろ現代英語圏における美的価値論をめぐる論争が重要であることを認識した。そのため、ドミニク・ロペスによる「美的ネットワーク理論」とニック・リグルの「社会的開放」の理論が、それぞれ、参加者による能力の交換や、通常の規範からの開放といった点で、対話的・協働的芸術実践においてとりわけ重要な価値を捉えていることを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
「アートプロジェクト」と呼ばれる芸術実践は日本各地で行われており、その特徴として、芸術の専門家と非専門家との持続的な対話と協働が挙げられる。そうした特徴には従来、美的な意義ではなく社会的な意義のみが認められてきた。しかし、本研究は、対話や協働の過程で人々がそれぞれの能力を持ち寄ること、また通常の生活で従っている規範から解放されることに、固有の美的な価値が認められると指摘した点で学術的・社会的意義を持つ。

研究成果の概要（英文）：This research project was originally aimed to compare the concept of aesthetic regime of art in Jacques Ranciere and the theory of dialogical/ collaborative art in Grant H. Kester. However, the researcher found out the importance of dispute on aesthetic value in contemporary philosophical aesthetics to gain basic theoretical insight into dialogical/ collaborative art practice between professional artists and non-professionals. Therefore, the researcher pointed out that the aesthetic network theory in Dominic M. Lopes and the concept of social openness in Nick Riggle articulate important aesthetic values in art practices: exchange of capabilities among participants and liberation from usual norms.

研究分野：美学

キーワード：対話的・協働的芸術　美的ネットワーク理論　社会的開放

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

芸術の自律性は、西洋近代の美学の基礎的な概念であるとともに、近年では「社会関与型芸術」と呼ばれる芸術現象との関係において批判や擁護の対象となっている。
社会関与型芸術には、芸術が社会課題を取り上げるだけでなくその解決が目指される、芸術家と非芸術家との協働が展開されるといった特徴がある。このような芸術実践は、芸術の自律性を損なうものとして批判される場合もあれば（クレア・ビショップ『人工地獄』原著 2012 年）、逆に自律性の概念が修正を要求される場合もあり（Grant H. Kester, *The One and the Many,* 2011.）、この論争のなかで近代美学史の再解釈も試みられている。

２．研究の目的

本研究の当初の目的は、そのような論争的状況において芸術の自律性を主題とする代表的な議論として、ジャック・ランシエールによる「芸術の美的体制」の理論と、グラント・ケスターの「対話」と「協働」の美学を分析することであった。特に本研究では、両者が自らの議論を近代美学の歴史との関係においてどのように位置づけているのかに注目した。この分析を通じて、芸術の自律性と社会への関与とは、表面上は対立するが、実際には密接な関係にあること、また、ランシエールとケスターの理論は、論争関係にあるにもかかわらず共通点が見いだされることを示そうとした。
本研究は上記の目的によって開始したが、専門的な芸術家と非専門家とのあいだで行われる対話的・協働的な芸術実践についての基本的な理論的洞察を得るため、英語圏の哲学的美学における美的価値をめぐる論争に着目し、そのなかでもドミニク・ロペスの「美的ネットワーク理論」とニック・リグルの「社会的開放」の理論を参照することで、対話的・協働的芸術実践に固有の美的価値のあり方を理論化することを試みた。

３．研究の方法

研究の方法としては、ドミニク・ロペスが美的ネットワーク理論を展開した著作『美に向かう存在』（2018）と、ニック・リグルがストリートアートについて論じた論文「ストリートアート」（2010）および、「社会的開放」について論じた『awesome であることについて』（2017）を分析し、対話的・協働的芸術実践について得られる理論的洞察を抽出した。

４．研究成果

論文「ドミニク・ロペス『美に向かう存在』における「美的ネットワーク理論」：「アートプロジェクト」の美的評価—その理論的モデルを求めて④」（*Co*Design,* 8, 2019, pp.75-97）

ドミニク・ロペスの美的ネットワーク理論は、美的性質と美的価値の対応関係（美的プロファイル）を共有するコミュニティに注目し、その内部とコミュニティ相互のネットワークについて論じる議論であり、複数のネットワークの技術の交換のハブとして、専門化された芸術実践の領域を性格づけるものである。この議論は、芸術家と非芸術家の協働の意義について理解する上で有効である。ロペス自身は明確に論じていないが、この理論によれば、芸術家と非芸術家とのあいだで、双方向的に、技術や美的プロファイルが交換される可能性が説明できる。

論文「ニック・リグルにおける「ストリートアート」と「社会的開放」の理論：「アートプロジェクト」の美的評価—その理論的モデルを求めて」（*Co*Design,* 10, 2021, pp.52-71）

ニック・リグルの社会的開放の理論は、所与の規範や役割から逸脱して個性を他者に示す「社会的開放」を、他者がやはり「社会的開放」を通じて受け入れるという相互的な関係について論じている。このリグルの理論が重要であるのは、対話的・協働的な芸術実践にたいする鑑賞のあり方の条件を定式化することに有益だからである。こうした実践については、外部的視点からの「客観的」な鑑賞が困難であるという問題点がかねてから指摘されるが、リグルの議論をふまえれば、社会的開放を含む実践は、それを観察する側にも社会的開放が求められることが理解される。

事典項目「芸術の社会的機能——社会参加の美学」（『美学の事典』、丸善出版、2020 年、pp.56-

57）

アートプロジェクトや社会関与型芸術について、芸術の自律性／他律性の概念を適用するさいの問題点などについて、歴史的背景を含めて言及した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 田中　均	４．巻 8
２．論文標題 ドミニク・ロペス『美に向かう存在』における「美的ネットワーク理論」：「アートプロジェクト」の美的評価－その理論的モデルを求めて④	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Co＊Design	６．最初と最後の頁 75-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/77268	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 田中　均	４．巻 10
２．論文標題 ニック・リグルにおける「ストリートアート」と「社会的開放」の理論：「アートプロジ ェクト」の美的評価――その理論的モデルを求めて⑤	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Co＊Design	６．最初と最後の頁 52-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/83306	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 田中　均
２．発表標題 アートプロジェクトでは何を鑑賞するのか？：芸術哲学からのアプローチ
３．学会等名 豊中地区研究交流会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名 美学会（編）	４．発行年 2020年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 768
３．書名 美学の事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関